2024年02月20日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【難しい相場が続く】

今年（2024年）の外国為替市場は、その対応が難しい相場つきになっている、と考えます。

主な原因は、各国（主要国）の金融政策に変更が起こるであろう、という予測があること。

そして、各国（主要国）のインフレ率の変動。

さらに、各国（主要国）の株価の上昇。

その他には、中国の不動産バブルの崩壊によるマイナス要因が挙げられる、と考えます。

++

まず、各国（主要国）の金融政策では、米国の利上げ政策が終了して、利下げ政策に転換することが予想されます。

ただし、米国のインフレ率が高止まり状態である場合は、米国の金利も高止まりして、利下げへの転換は先送りされることになります。

つまり、米国の金利は、高いまま維持される期間が長くなる可能性がある、ということ。

米国の株式市場は好調を維持していますが、米国金利の高止まりが続く場合に、好調を維持できるのか、注視する必要がある、と考えます。

インフレが要因となり、株価が上昇している面もあるので、そのバランスを汲み取る必要もある、と考えます。

++

日本の金融政策は、現在の大規模な金融緩和政策が終了して、金利上昇局面に移っていくことが予想されます。

ただし、日銀は、賃金の上昇を確認したい様子で、現状の日本のインフレにもかかわらず、直ぐには金融政策を変更せずに、従来の金融緩和政策を維持しています。

日本の株式市場も好調です。

日銀が、現在の大規模な金融緩和政策を続けていることは、日本の株価上昇の大きな要因です。

ただし、今年（2024 年）の内に、日銀は、いずれ利上げに転じざるを得ない、と考えます。

++

中国の不動産バブルの崩壊は、既に、始まっている、と考えます。

ただし、本格的なバブル崩壊の様相は、今のところ、まだ現れていない、と考えます。

だから、外国為替市場に影響が出てくるのは、まだ先のこと、と考えます。

過去の日本のバブル崩壊を振り返ってみても、バブル崩壊そのものに、相当の時間がかかる、と考えます。

崩壊が終わって、その回復に向かうには、それ以上の時間がかかるのだろう、と予測します。

中国の不動産バブルの崩壊は、長期にわたるマイナス要因になるだろう、と危惧しています。

++
++

（2024 年 02 月 20 日東京時間 15：10 記述）